

豊中市地域包括支援センター外部評価表

○仕様書[4] 業務内容 ア) 介護予防ケアマネジメント業務について特に力を入れて取組んだことを記入してください。

番号	評価項目	自己評価（目標達成度）	外部評価 (地域包括支援センター運営協議会からの意見等)
1	介護予防ケアマネジメント業務（次のいずれかの視点を入れて取組んでください） ☐ 自立支援に資するプランになるよう、委託先の居宅介護支援事業所に対し、積極的なアプローチを実施している。 ☒ 高齢者の主体性を引き出すための工夫をしている。 ☐ リハビリ専門職に意見を求めるなど、生活能力の改善・維持・悪化の可能性を見極める視点を培っている。 ☐ 潜在的対象者の把握について工夫している。	（目標と具体的な取り組み内容） 目標：自立支援や介護予防の意義を理解し、包括主体で開催するのではなく、地域住民の意志で、地域住民主体の活動ができるように協力する。 取り組み： ・全校区で地域住民に対し自立支援、介護予防の意義が浸透するよう意識的に「地域教室」を行った。地域教室ではアンケート結果に基づいてテーマの選定を行い地域住民が学びたいことに焦点を当て実施している。 5/15 小曾根：パワーアップ体操普及啓発 5/26 緑地：体力測定会と笑いヨガ 6/6 高川：初夏の旬野菜を収穫！五感と体を使って介護予防 6/13 寺内：一緒に笑って、楽しい時間を過ごしましょう 7/14 北条：楽しい体操で元気いっぱい！ 7/27 豊南：ルールを覚えて楽しもうボッチャ大会 9/19 小曾根：「人生会議」と「エンディングノート」 10/26 豊南：頭と体をたくさん使って認知症予防 10/30 緑地：ためになる！特殊詐欺と消費者トラブル 11/13 寺内：成年後見制度 11/24 北条：スマートフォン基本講座 11/30 高川：スマートフォン講座 また、地域住民のニーズに答え、追加で下記の講座を行った。 10/25 高川：「人生会議」と「エンディングノート」	【取組進捗状況内容】 地域ニーズを踏まえた、多彩な内容の地域教室が多頻度で開催されています。（平均月2回程度） 毎月、地域住民が主体となった交流の場が複数開催されており、地域住民の交流と活動の場が形成されています。 カフェ活動も月2回開催が1カ所、月1回開催が1カ所活動されています。 【特に優れている点】 集いの場やカフェがいずれも住民主体での活動展開が行われており、住民の主体的な活動を支え、啓発の場、介護予防や他の事業への誘導等につながられていることで、介護予防やセルフプランの実現に繋がるよう努められています。 【課題】 住民主体での活動が展開されている現在のうちに、次を担え継続できる担い手の確保

令和 5 年度 緑地地域包括支援センター

		11/20 寺内：ボッチャ大会 ・おしゃべりの会ふくわらい 以前よりボランティア活動に取り組まれていた方々がコロナ禍で活動の場を無くしてしまった。コロナ禍の落ち着きと共に、そういった方々の少しでも人の役に立ちたいとの思いを受けて、前年度に立ち上がった「お針の会たまてばこ」にならい、住民主体でのんびりと楽しくおしゃべりをする「おしゃべりの会ふくわらい」を立ち上げた。立ち上げまでに数回の会議を重ね、ほっと愛カフェ等の集いの場に参加することでイメージを作ってもらった。月 1 回地域住民が主体となり雑談や歌、カードゲーム等（内容は参加者が相談しながらその日に決定している）を行い、介護予防に繋がっている。 ・お針の会たまてばこ 昨年立ち上がった「お針の会たまてばこ」では月 1 回地域住民が主体となり地域の施設の衣類修繕やバッグ作り、ビーズアクセサリ作りといった手芸を中心に活動している。 ・高川カフェ お針の会たまてばこの参加者より、以前高川カフェに通われていたことから「高川カフェ」を再開したいとの意見があった。以前主催されていた社会福祉協議会と連絡をとり、地域住民、包括や社協担当者で意見交換の場を作った。その後、数回の協議を重ね 9/12 にカフェ再開となり地域住民の思いに寄り添うことができた。 ・ほっと愛カフェ ローズコミュニティにて月 2 回開催している。参加者に希望を募り歌体操や口腔体操、脳トレを行っている。外出のひとつのきっかけとして、総合相談で関わる地域住民にもお薦めしている。 ・高川ほっと愛カフェ	育成に期待します。
--	--	---	------------------

令和 5 年度 緑地地域包括支援センター

		高川図書館にて月 1 回、回想カード使用をしたグループ回想法を行っている。何度か実施しているうちに参加者の反応や効果を感じ毎回実施し、参加者が積極的に話をしてくれる場となった。 また、歌体操やコグニサイズにて介護予防、認知症予防も行っている。 ※各々の集いの場で、はつらつ教室への本人ニーズに合わせた啓発、卒業後の体力測定会への参加継続と参加時の本人状況と自立に向けた助言を行っている。	
		【課題】 ・集いの場を開催する次世代の担い手の発掘。 ・住民主体を促すための理解を得る方法の難しさ。	
		【改善の方策と次年度の取組み】 ・各々の地域住民の集まりに参加した際には、参加者の声に耳を傾けて情報収集することを心掛ける。 ・声が聞けるように地域住民との信頼関係を築いて行く。	

令和 5 年度 緑地地域包括支援センター

○仕様書[4] 業務内容 イ) 総合相談支援及び権利擁護業務について特に力を入れて取組んだことを記入してください。

番号	評価項目	自己評価（目標達成度）	外部評価 (地域包括支援センター運営協議会からの意見等)
2	総合相談支援及び権利擁護業務（次のいずれかの視点を入れて取組んでください） ☐ 自分らしく尊厳をもって生活することができるよう、自己決定・意思決定支援をしている。 ☐ 予防的アプローチと地域づくりに取組んでいる。 ☒ 職種の専門性を活かしたチームアプローチを実施している。 ☒ 多機関と連携した重層的支援体制の構築に向けた取組みを実施している。	（目標と具体的な取り組み内容） 目標： ・利用者の自分らしい生活の安定を目指した、アプローチを実践する。 ・複合課題ケースに対応するために多機関との顔の見える関係を構築する。 取り組み： ・社会福祉士による虐待対応や金銭管理、消費者被害に対する成年後見制度申請の実施。保健師による慢性的な疾患に対する相談やアドバイス、緊急時の判断。生活を立て直すため主任ケアマネによるプランニングとサービス調整、ケアマネへの後方支援、ケース会議開催。3 職種の強みを活かしながら、毎朝および緊急時にミーティングを開き、協議の結果、全職員が困難ケースに対応している。 ・緑地障害者相談支援センターと共に「多機関連携交流会グリーンメイトの会」を 3 回（2 月以降にあと 1 回開催予定）開催した。緑地圏域の医療や介護、福祉に携わる専門職約 80 名が集まり、8050 問題、重層的支援、専門職の連携による成功体験、障害者支援をメインテーマに意見交換を行った。 6 月開催では、8050 問題について高齢の父親、子供が障がいがあるという 2 人世帯設定で作成した事例についてグループワークを行った。専門職それぞれの立場での支援の方法を検討しあった。包括では高齢者支援が中心なため、子供や障がい者支援についての制度や取り組みについて有意義な意見交換を行えた。	【取組進捗状況内容】 圏域内の多職種を対象とした意見交換会が年 3 回開催されており、重層的支援や連携事例についての情報交換・情報共有が行われています。服部地域包括支援センターとの連携で介護支援専門員に向けた勉強会が年 5 回開催されています。 【特に優れている点】 併設の障害者相談支援センターと協働することで、圏域内の多職種に向けた、重層的支援に対する必要な情報の共有と対応の拡充につながられています。 【課題】 重層的支援が必要なケースが増加している中、多職種連携によって対応する場や時間の確保について、より一層の工夫や拡充に期待します。

令和 5 年度 緑地地域包括支援センター

		10 月開催の「専門職連携による成功体験」では、2 事例の紹介を行った。事例①福祉用具事業者の立場から見たケアマネを中心とした専門職連携について。事例②重層的支援のケースで障害者支援センターと連携し緊急時訪問対応につながり、情報共有のために多職種でケースカンファレンスが積極的に行われたケースについて。①②を参考に行ったグループワークでは各自の連携における成功体験を話し合った。専門職が集まり、知識の研鑽を行うとともに、お互いの顔を突き合わせ交流することで距離が近づき相手のことを理解することができる。支援を行う上での連携体制の構築を進めることができた。 【課題】 ・権利擁護や複合課題ケースが増え、困難ケースの振り返りの時間が取れない。 ・多機関連携交流会における開催場所や開催方法。 【改善の方策と次年度の取組み】 ・多職種参加のケースカンファレンスを重ねることで、包括の役割を確認しながらスキルの向上につなげる。	
--	--	---	--

令和5年度 緑地地域包括支援センター

○仕様書[4] 業務内容 ウ) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務について特に力を入れて取組んだことを記入してください。

番号	評価項目	自己評価（目標達成度）	外部評価 （地域包括支援センター運営協議会からの意見等）
3	包括的・継続的ケアマネジメント支援業務（次のいずれかの視点を入れて取組んでください） ☒介護支援専門員等への個別ケアマネジメント支援において、地域包括支援センターが代わりに行うのではなく、介護支援専門員がより良い判断に到達できるよう助言等の支援している。 ☐地域アセスメントを実施し、地域の実情に応じた取組みを実施している。	【目標と具体的な取組み内容】 目標：ケアマネ等への後方支援の実践、その実践のためのネットワークの構築をする。 取組み： ・主任ケアマネを中心とした「かささぎ会」を立ち上げ、専門職の日ごろの悩みや疑問点、スキルアップにつながる助言等の意見交換の場として年4回（3月にあと1回開催予定）開催した。居宅介護支援事業所における直近の実地指導での準備物や市役所職員からの指摘内容、加算を算定するためのポイント等の確認を行った。また、身寄りのない利用者に対するケアマネの立場について意見交換も行った。利用者が入院や介護サービスを開始した際、ケアマネがキーパーソンになり、重い判断を迫られることがある。ケアマネの業務はケアプランを作成することが主となる仕事なため権利擁護対応までの時間がないとの声があり、近年の流れには戸惑いがある。権利擁護については成年後見制度や社会福祉協議会の日常生活自立支援事業等の活用を呼び掛ける動きとなった。普段から疑問に思っていることや今更聞けないことを聞けたとの意見をいただいた。 ・服部包括との共催で経験年数に関わらずスキルアップを目標とし「服部・緑地ケアカフェ」を年5回（1月以降に2回開催予定）開催した。障害者相談支援センターの相談員を講師に、障害者福祉の制度についての勉強会を開催した。また、弁護士による高齢者虐待や権利擁護についての研修も開催した。番外編として、ケアマネの退職者が多い現状を受けて、まずは少数派の男性ケアマネに焦点を当てた交流会を開催した。横のつながりを持つことで、男性ケアマネならではの相談がしやすくなり安心して長く働	【取組進捗状況内容】 圏域の主任介護支援専門員に対する「かささぎ会」を立ち上げ、年4回資質向上や事例共有が行われています。服部地域包括支援センターとの協働で、介護支援専門員に対する勉強会が年5回開催されています。 【特に優れている点】 勉強会では、専門職も招致し、専門的な情報共有やアドバイスが得られるよう配慮されています。 【課題】 介護支援専門員に向けた、権利擁護の基本的な認識や情報提供の拡充に期待します。

令和 5 年度 緑地地域包括支援センター

		くことができる環境を作ることの一助になればとの思いから企画した。参加者からは継続開催を希望する声が上がっている。	
		【課題】 ・ケアマネが学びたい等スキルアップに必要な内容の把握が難しい。 ・ケアマネ同士のネットワーク定着化。	
		【改善の方策と次年度の取組み】 ・ケアマネの悩みや疑問点を気軽に出来る環境づくりに努める。 ・声かけをする事業所の拡大を図る。	

令和5年度 緑地地域包括支援センター

○仕様書[4] 業務内容 エ) 一般介護予防事業を推進する取組みについて記入してください。

番号	評価項目	自己評価（目標達成度）	外部評価 (地域包括支援センター運営協議会からの意見等)
4	一般介護予防事業を推進する取組み（次のいずれかの視点をに入れて取組んでください） ☐地域の通いの場づくりにおいて、地域及びグループの特性に応じた活動を、創意工夫しながら支援している。 ☒多様な地域活動や通いの場等と連携し、介護予防ネットワークの構築を推進している。 ☐体力測定会において短期集中サービス終了後のセルフケアの定着を推進しつつ、地域資源につなげるなど高齢者の社会参加を促す取組みを実施している。	【目標と具体的な取組み内容】 目標：地域住民、専門職とともに介護予防や認知症予防、暮らしの中で困っていることの情報共有を行う。 取組み内容： ・チーム緑地弥栄パッピーくらぶ 月1回（他地域活動への参加）高齢者の介護予防や認知症予防に取り組む、いつまでも健康で穏やかに住み慣れた地域で生活していけるための社会資源として活動した。介護予防はもちろんのこと、防災講座や小学生を含む全世代を対象とした夏休みキッズ認知症サポーター養成講座、補聴器についてなどを実施した。寺内、緑地、北条校区を中心とした介護サービス従事者の有機的なネットワークの構築により開催できている。 ・高川ふらっとクラブ 月1回（他地域活動への参加）高川校区高齢部会を中心としたネットワークの中で誕生したプロジェクトであり、介護や認知症予防に取り組むいつまでも健康で穏やかに住み慣れた地域で生活していけるための社会資源として活動している。福祉用具体験会やポップリ作成、救急救命講習、音楽療法、体力測定、小学生を含む全世代を対象とした夏休みキッズ認知症サポーター養成講座などを実施した。 チーム緑地弥栄パッピーくらぶ、高川ふらっとクラブとも担当者間がSNSで繋がり、迅速な情報共有、小学校認知症サポーター講習などの他の活動への協力要請が可能となっている。 ・全校区で地区担当者を配置し計画的に地域まわりを実施した。なんでも	【取組進捗状況内容】 毎月の介護予防を踏まえた地域のクラブ活動が2カ所で行われており、クラブ活動から派生した地域活動や啓発活動も展開されています。 【特に優れている点】 高齢部会の参加者から発出されたクラブ活動の創設や拡充の中で、啓発活動の拡充につなげ、住民主体の介護予防にかかるネットワーク、介護へのネットワーク形成につなげられています。 【課題】 クラブ活動への新規参加者の拡充や対象者層の発展に期待します。

令和 5 年度 緑地地域包括支援センター

		相談、ローラー作戦、サロン、民生委員定例会などへの関わり、商業施設や金融機関を含めた多くの関係機関と連携した。身なりや話し方、同じ話を繰り返す、毎日来られるなど気になる高齢者の相談が様々な関係機関から入るようになっており包括の役割が少しずつ周知できていることを実感している。 ・介護予防では自主グループの立ち上げ 1 カ所、体力測定会の毎月開催に加え地域教室やサロン、地域のイベントでも講師として呼ばれる等様々な場所で実施した。通いの場参加者の声を拾いながら介護予防の普及を行えた。 ・体力測定会での参加者の声から情報を集めて今後の方向性をその都度考えている。 【課題】 ・各々の会の参加住民の固定化、集客方法の工夫、地域住民への周知広報の方法。 【改善の方策と次年度の取組み】 ・掲示方法の工夫や SNS を使った発信普及啓発を行う。	
--	--	--	--

令和5年度 緑地地域包括支援センター

○仕様書[4] 業務内容 オ) 認知症地域支援・ケア向上事業について特に力を入れて取組んだことを1つ記入してください。

番号	評価項目	自己評価（目標達成度）	外部評価 （地域包括支援センター運営協議会からの意見等）
5	認知症地域支援・ケア向上事業（次のいずれかの視点を入れて取組んでください） □認知症支援に関する個別事例において、嘱託医、初期集中支援チーム、疾患センター等の専門機関に相談する必要性を判断し、必要時相談できる体制を整えている。 ☑地域の実情に応じた方法により、認知症の人とその家族が参加する場で、本人の意欲向上と家族の介護負担感の軽減、認知症の人の在宅生活の安定を推進している。	【目標と具体的な取組み内容】 ・多世代に認知症の理解についての普及啓発を強化する。 具体的な取り組み ・昨年に引き続き寺内小学校4年生（99名）を対象とした子ども向け認知症サポーター養成講座を実施した。認知症の方への対応をグループワークにて意見交換を行うなど認知症という病気ついて考える時間を持った。認知症サポーターとして子どもでもできる無理のない支援が行えることを伝えられた。福祉用具体験会も同時に行い車いすや杖を実際に使用することで高齢者や障害者の気持ちを理解し、共に支えあえることを学ぶ機会にすることができた。また、講師や協力者として、地域住民や市役所職員、高川みんなでプロジェクト、チーム緑地弥栄のメンバー、他包括の方に来ていただき専門職の地域ネットワーク体制を強固なものにできた。 ・チーム緑地弥栄パッピーくらぶ、高川ふらっとクラブにて夏休み子ども向け認知症サポーター講座を実施した。子供でも理解できるように、興味を持ってもらえるように寸劇や紙芝居を取り入れ参加者からの感想も好評であった。 ・法人内新人研修や介護予防センター内健康大学、老人会等からの認知症サポーター養成講座の依頼があれば全て対応した（10回開催）。 ・若年性認知症の相談に対して地域の活動の情報提供を随時行えた。法人に働きかけ法人事業の子供食堂調理ボランティアに繋ぐことができた。役割を持つことでの若年性認知症の方の居場所づくりに貢献できた。 ・総合相談ケースからも本人の課題を聞き取り、地域での居場所を見つけ	【取組進捗状況内容】 月2回開催のカフェが1カ所、月1回開催のカフェが1カ所活動されています。当事者・家族の参加割合も半数弱あり、情報交換・情報共有、レスパイトの場となっています。カフェ機能を有した小規模な場も並行して活動されています。 【特に優れている点】 総合相談の中から地域活動へと結びつけ、集いの場やクラブ活動への誘導から、地域との結びつきや相談の場の確保につながられています。多人数カフェへの参加が困難な方のために、カフェ機能を有した「おしゃべり会ふくわらい」「お針の会たまてばこ」が住民主体で活動されており、受け皿となっています。 【課題】 主体的な住民活動を活かし、オレンジャーの育成拡充につなげていけることを期待します。 関係機関、地域団体等を連携して、持続可能な体制での実施に方法の工夫を期待します。

令和 5 年度 緑地地域包括支援センター

		るサポートができた。	
		【課題】 ・より多くの子供たちに認知症について知ってもらう機会を作っていく場 が少ない。教育機関との連携や理解を求めて行く。 ・住民主体での取り組みの難しさ。	
		【改善の方策と次年度の取組み】 ・オレンジャーと一緒に取り組む。 ・住民主体の認知症カフェの立ち上げ、運営を行う。 ・寺内小学校以外の小学校や幼稚園、中学校等での認知症サポーター養成 講座や福祉用具体験会開催のため教育機関との連携や情報提供の継続。	